

# アートの島 = 天王洲アイル

本プロジェクトは、「アートの島 = 天王洲アイル」を舞台に、計7箇所で、7人のアーティストによる壁画や写真展示、橋のライトアップを含む国内最大級のMURAL PROJECTです。水辺とアートをキーワードに賑わいと魅力あるまちづくりを推進する天王洲アイルにおいて、運河沿い建築物への大型壁画アート、品川区の公共桟橋待合所での壁画アート、ふれあい橋におけるアート写真の展示、駅通路での壁画アートなどの展示により「アートの島 = 天王洲アイル」を印象付けるシンボリックな展示を行います。

## 現地制作日程

- 2.1(金) - 10(日) DIEGO
- 2.9(土) - 末 浅井裕介
- 2.10(日) - 20(水) Rafael Sliks (サンパウロより来日)
- 3.1(金) - 14(木) ARYZ (スペインより来日)
- 3.2(土) - 10(日) Lucas Dupuy (ロンドンより来日)
- 3月初旬 松下徹

※会場については、中面のエリアマップをご確認ください



DIEGO 現地制作風景

本プロジェクトを通して、屋外アートと屋内アートの活用による天王洲アイルの魅力あるまちづくりを目指します。さらには、国際芸術都市・天王洲に向け、国外アーティストにも天王洲に來訪いただき、水辺で出会う日本文化とアートのコミュニケーションを図ります。

## TENNOZ ART FESTIVAL 2019

最新情報はSNSで更新中！

  #tennozartfes

### 日程

2019年 3月8日(金) - 4月7日(日)

- ふれあい橋では3.8(金) - 4.7(日) 小林健太の写真展示を実施、夜にはライトアップが行われます
- アートの展示内容により、実施期間は異なります

### 会場

天王洲エリア 計7会場

ふれあい橋橋梁 / 東横INN立体駐車場壁面 / 三信倉庫壁面 / 寺田倉庫T33壁面 / 東品川2丁目桟橋待合所壁面 / ボンドストリート(内山コンクリート)壁面 / 東京モノレール「天王洲アイル」駅改札前

### アーティスト

ARYZ (アリス) / 浅井裕介 / Lucas Dupuy (ルーカス・デュピュイ) / Rafael Sliks (ラファエルスリクス) / DIEGO (ディエゴ) / Kenta Cobayashi (小林健太) / 松下徹

主催：一般社団法人天王洲総合開発協議会、天王洲アートフェスティバル2019実行委員会  
助成：公益財団法人東京観光財団 協賛：寺田倉庫、日本ペイント(株)、(株)アマナ  
協力：(株)東横イン、三信倉庫(株)、戸部商事(株)、東京燃焼材林産(株)、東京モノレール(株)、IMA、ANOMALY、一般社団法人天王洲・キャナルサイド活性化協会 後援：品川区、東京都港湾局  
天王洲アートフェスティバル2019実行委員会メンバー  
プロデューサー：中野善壽(寺田倉庫 代表取締役)  
実施責任者：和田本聡(一般社団法人天王洲総合開発協議会) 副責任者：田嶋拓也(寺田倉庫)  
お問い合わせ 天王洲アートフェスティバル2019事務局 森結紀納 MAIL: mori.yukina@terrada.co.jp  
この事業は、東京都・公益財団法人東京観光財団「水辺のにぎわい創出事業助成金」を活用して実施しています。

2019.3.8 fri

4.7 sun

TENNOZ ISLE

# TENNOZ

# ART

水辺と出会う  
日本文化とアート

# FESTIVAL

# 2019







**ARTIST**

国内外で活躍する  
7組の若手アーティストを  
迎え開催します。

**1 小林健太**  
Kenta Cobayashi

1992年神奈川県生まれ。ポストデジタル世代を代表する日本人若手写真家。主なグループ展に「ハロー・ワールドポスト・ヒューマン時代に向けて」(水戸芸術館現代美術ギャラリー、2018年)など。集美×アルル国際フォトフェスティバル(廈門、中国、2015年)、UNSEENフォトフェスティバルなどにも参加している。若手写真家の旗手のひとりとして、国内外で高い評価を受け、活躍している。

**2 Rafael Sliks**  
ラファエルスリクス

1981年ブラジル生まれ。ブラジル、サンパウロで活躍するグラフィティアーティスト。アールヌーボー、シュールレアリスム、表現主義に影響を受け、近年では新たな表現に挑戦することでグラフィティ表現の可能性を広げている。主なグループ展に「Compendium: Post Graffiti Contemporary Abstraction」(Treasure Gallery, 2017)など。ヨーロッパ、アメリカを中心に様々な場所で展示を行い、活躍している。

**3 浅井裕介**  
Yusuke ASAI

1981年東京都生まれ、東京在住。滞制作する場所で採取された土と水を使用し、動物や植物を描く「泥絵」や、アスファルトの道路で使われる白線素材のシートから制作する「植物になった白線」など、いかなる場所においても作品を展開する。彫刻の森美術館での「浅井裕介ー絵の種 土の旅」(2015-2016年)、ヒューストン Rice Galleryでの「yamatane」(2014年)など国内外のアートプロジェクトに多数参加。

**4 ARYZ**  
アリス

カリフォルニア州バロアルト生まれ、バルセロナで育ち、アーティストとしての活動を開始。15年の間に世界中の公共空間で活動を展開。地域住民から公共機関、特にインターネット上の膨大なフォロワーから支持を集めている。アリス自身は活動について多くを語ることはないが、近年アリスによって10年間分の活動を紹介する『OUTDOORS』が出版され、グローバルに広がる活動がどのような意味を持つのかということを書いていく。

**5 Lucas Dupuy**  
ルーカス・デュピュイ

ルーカスは幼い頃「難読症」を患い、正しく文章を読むことが困難だった。彼には、文字の形がボヤけ、文字がページから溢れ出して飛び回って見えていたと話す。そのため「文字」が持つ意味の枠組みを超え、図形や構造物として見て、繰り返すリズムとして捉え直すことで、難読症を克服していった。彼の絵画表現はその経験を元に、判読不可能で、未知のものを象徴する形、記号、図表として描いている。

**6 DIEGO**  
ディエゴ

10代でストリートアートを始めたDIEGOは、街に落ちていたペットボトルや紙くず、路上で見かけたねずみや、道を通る車など、街で普段何気なく目にするモノを、ユーモラスに擬人化、文字化させ、抽象絵画として描いている。独自に発展させたストリートアートは、絵画、壁画、graffitiやコンセプチュアルアートにまで、活動の幅を広げている。また自身も壁画プロジェクトを展開し、世界各国のアーティスト達に壁画の場を提供している。

**7 松下徹**  
Tohru Matsushita

1984年神奈川県に生まれ、2010年東京藝術大学先端芸術表現科大学院を卒業、2012年より高須咲恵とともにアーティストコレクティブ「SIDE CORE」を発足。アメリカで過ごした高校生活でグラフィティ文化に触れて以来、グラフィティやストリートアート、それらの文化に接続される表現の歴史を調査し、作品制作に反映させている。